

第137回 中小企業景況調査報告書(概要版)

平成 25 年 7 月～ 9 月実施

平成 25 年 10 月～12 月予測

福岡県商工会連合会





















この調査は、中小企業の景気動向について、その実態と要因を四半期ごとに分析し、業種間の比較によって差異分析を行い、その分析結果に基づき、今後の経営活動の健全な発展を図るために業種別の景況情報を提供する。

1. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接聞き取り調査
2. 調査時点 平成 25 年 9 月 1 日 (日)
3. 調査対象時期 平成 25 年 7 月～9 月
4. 調査対象企業 須恵町・筑紫野市・糸島市・筑前町・田主丸町・柳川市・水巻町・みやこ町・飯塚市・大任町
5. 回答企業 149 企業 (有効回答率 99.3%)






製造業		建設業		小売業		サービス業	
企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比
30	20.1%	20	13.4%	41	27.5%	58	38.9%

☑ 県下産業全体 (業況:売上額 D.I)

➡ **建設業で持ち直しの動きがあるものの、他業種は厳しい状況が続く**

期間	製造業		建設業		小売業		サービス業	
平成 24 年 7 月～9 月		0.0		△40.0		△35.0		△12.9
平成 24 年 10 月～12 月		△34.7		△25.0		△32.5		△26.7
平成 25 年 1 月～3 月		△50.0		△10.0		△72.5		△24.5
平成 25 年 4 月～6 月		△57.1		0.0		△41.5		△19.6
平成 25 年 7 月～9 月		△13.8		0.0		△44.0		△12.1

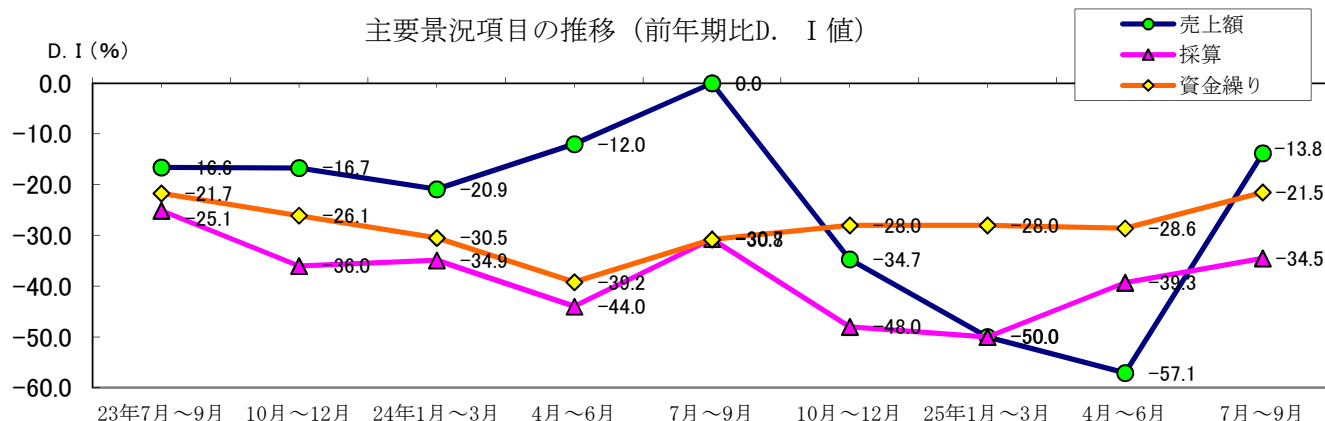
< 天気図の見方 >

D.I 値	100.0～30.1	30.0～10.1	10.0～△10	△10.1～△30	△30.1～△100
表示	 【快晴】 +30.1 以上	 【晴れ】 +10.1 ～30.0	 【薄曇り】 △10.0 ～10.0	 【曇り】 △30.0 ～△10.0	 【雨】 △30.1 ～△100

県下産業全体の売上額 D.I 値を前年同期 (平成 24 年 7 月～9 月) と比較すると 0.8 ポイント改善、前回調査時 (平成 25 年 4 月～6 月) と比較すると 10.7 ポイント改善している。前年同期からの改善の要因は、建設業が 40 ポイントの改善、サービス業が 0.8 ポイントの改善が貢献している。前回調査時からの改善の要因は製造業が 43.3 ポイントの改善、サービス業が 7.5 ポイントの改善が売上額 D.I 値を押し上げている。

☑ 製造業 (有効回答数 30 企業)

➡ **受注は回復の兆しがあるが、原材料価格高騰の影響で足踏み状態が続く**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

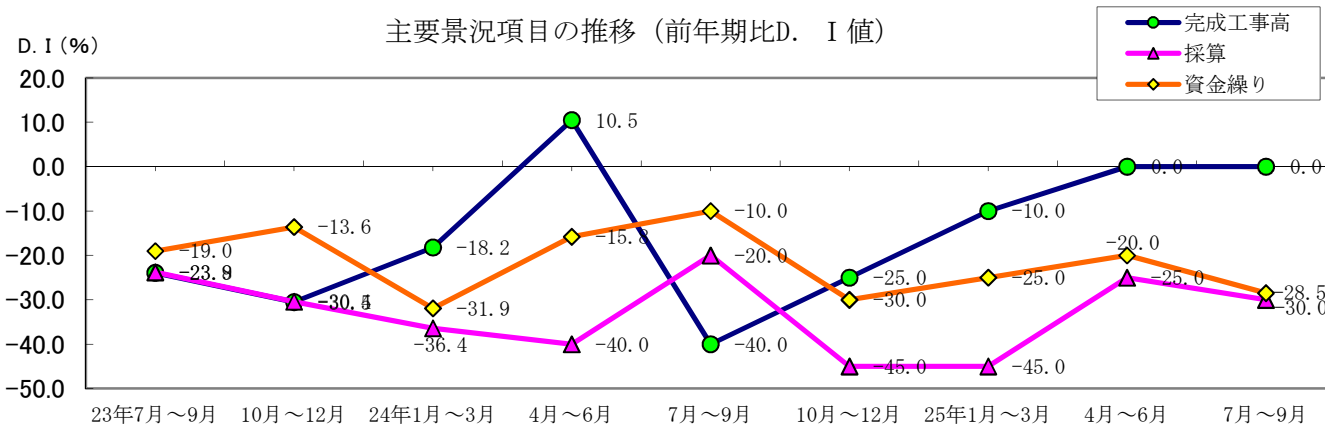
- ・前年より需要が低下して売上が減少している。また、原料小麦等の値上げと重油等石油製品の値上が経費を増加させて経営を圧迫している状況。今後も電気代や小麦粉等が値上になるので、更なる経営の悪化が心配。(めん類製造業)
- ・地方の零細企業にはまだ景気の上昇は感じられない。(機械部品加工業)
- ・得意先の廃業及び倒産等による売上の減少に伴い、原油価格の上昇による原材料(シンナーや塗料)の値上がりの影響を受け、売上の減少がかなり深刻になるものと予想されます。(金属製品塗装業)

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	原材料価格の上昇 28.6%	第1位	需要の停滞 28.6%(+10.7)
第2位	需要の停滞 17.9%	第2位	原材料価格の上昇 21.4%(-7.2)
第3位	製品ニーズの変化 10.7%	第3位	生産設備の不足・老朽化 21.4%(+14.3)

☑ 建設業 (有効回答数 20 企業)

➡ **依然好調も、資材価格高・職人不足が採算に影響**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

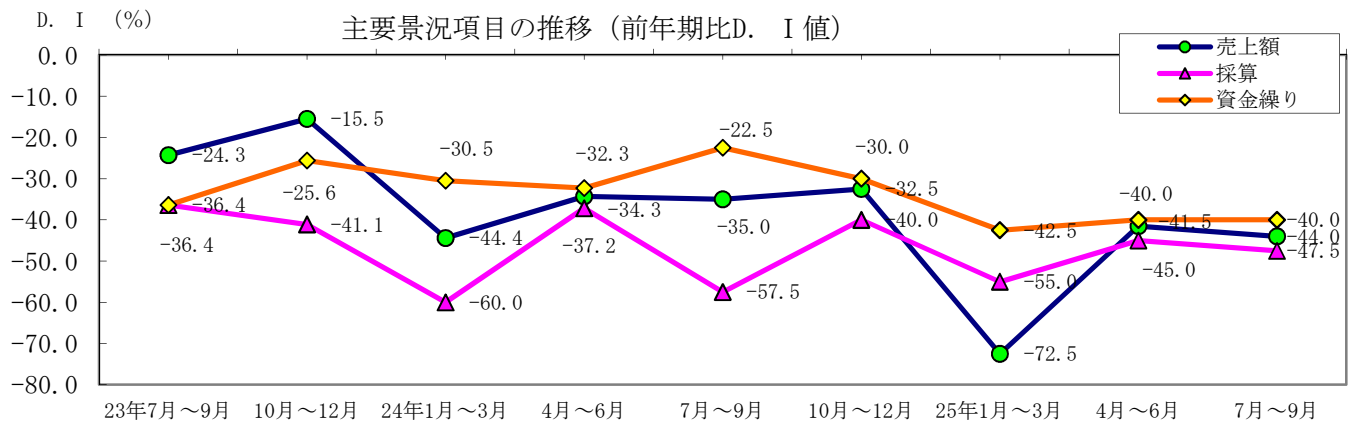
- ・引合いは増加しているが、技術者や下請け業者を確保できないため受注には至っていない。(木造建築工事業)
- ・消費税増税前の駆け込み需要が見られるが、来年度以降が非常に不安である。(鉄骨工事業)
- ・消費税増税を前にした合い相見積が増加。ただし、消費者の財布の紐は固い(ネットで消費者が仕入れた機器の取付工事の増加)。年、後半よりコンパネ仕入価格がアップする見込み。(木造建築工事業)

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	請負単価の低下、上昇難 23.5%	第1位	請負単価の低下、上昇難 22.2%(-1.3)
第2位	材料価格の上昇 17.6%	第1位	材料価格の上昇 22.2%(+4.6)
第3位	民間需要の停滞 11.8%	第3位	従業員の確保難 11.1%(+5.2)

☑ 小売業 (有効回答数 41 企業)

➡ **大型量販店などの低下価格攻勢に押され、全体的に悪化傾向**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

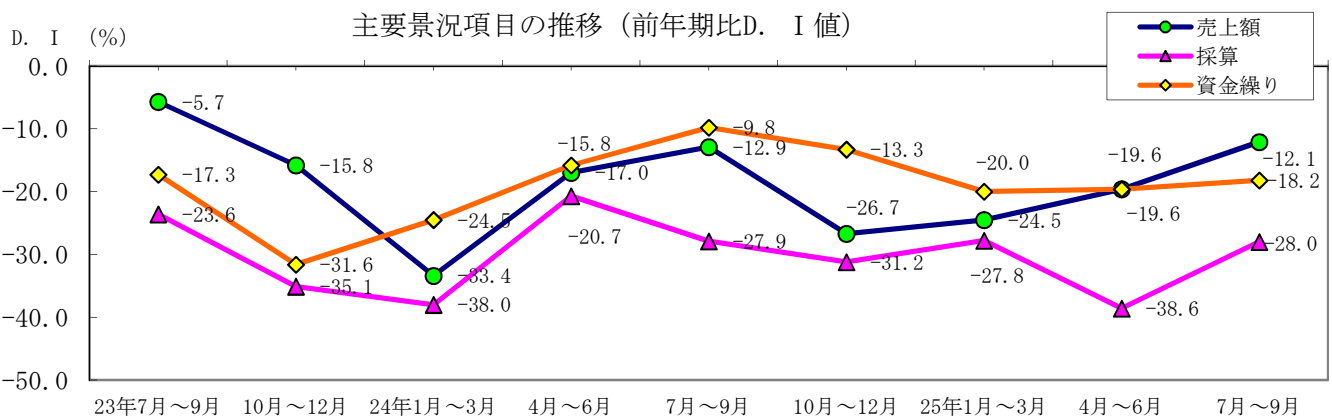
- ・数年前より販売単価の低下により、なかなか上昇が難しい。乾物加工においても、加工代金の上昇が難しく、加工数量をこなすことにより売上を上げるしかない。又衛生面が厳しくコストがかかり厳しい。(米穀類小売業)
- ・大型量販店のたび重なる出店の影響をまともに受けている現状維持がやっとである。(各種食品小売業)
- ・当社は中古品を販売しているが、新品価格が下がっているため、競争力が低下し、苦戦(中古品小売業)

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	大型店・中型店進出による競争の激化 20.0%	第1位	大型店・中型店進出による競争の激化 35.0% (+15.0)
第2位	消費者ニーズの変化 15.0%	第2位	同業社の進出 17.5% (+5.0)
第3位	同業者の進出 12.5%	第3位	購買力の他地域への流出 12.5% (±0.0)

☑ サービス業 (有効回答数 58 企業)

➡ **猛暑の影響で持ち直しの傾向にあるも、原材料価格高騰で明暗が分かれた**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・猛暑の影響で利用者は増加したが、燃料の高騰により収益は改善していない。(一般乗用旅客自動車運送業)
- ・昼のランチは安定しているが、来年度の消費税の増税の影響もあり、夜の営業は客単価も下がり売上高も減少している。また、仕入原価が高騰し利益を圧迫している。(すし飲食業)
- ・今年の夏は異状に暑く涼を求めて外食させるお客が多く感じました。その特需効果と安価を求める団体客の利用が多く感じた。(中華料理店)

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	需要の停滞 21.6%	第1位	需要の停滞 19.1% (-5.2)
第2位	店舗施設の狭隘・老朽化 15.7%	第2位	利用者ニーズの変化 14.9% (+1.4)
第3位	利用者ニーズの変化 11.8%	第3位	店舗施設の狭隘・老朽化 12.8% (-0.7)

